



2020年11月9日

報道関係各位

同志社女子大学広報広報室広報課

## 同志社女子大学 写真コンテスト 「SEITO フォトコン'20」入賞作品発表！！

同志社女子大学では、高校生（女子に限る）を対象とする写真コンテスト「SEITOフォトコン」を開催し、第13回開催となる本年は、744点の応募がありました。その中から最優秀賞1作品、優秀賞8作品、特別審査員賞2作品、入選27作品を選出いたしました。入賞作品は11月4日（水）に本学Webサイトにて発表しております。入賞作品と講評をFAX送付いたしますので、ご覧ください。

なお、入賞作品の写真データを希望される場合は、**広報課（0774-65-8631）**までご連絡いただければE-mailにて送信いたします。

### 【SEITO フォトコン概要】

- 応募期間 : 2020年5月13日（水）～9月11日（金）  
応募資格 : 高校生（女子に限る）  
テーマ : テーマはありません。  
応募総数 : 744作品  
表彰 : 最優秀賞 1作品、優秀賞 8作品、特別審査員賞 2作品、  
入選 27作品  
審査委員 : 森公一（本学教授・審査委員長）、有賀妙子、影山貴彦、河江優、佐伯林規江、  
竹井史、和田戈虹（以上、本学教授）、山下 智子、片山 由加里（本学准教授）  
特別審査委員 : 八田英二（学校法人同志社理事長）、飯田毅（本学学長）  
アドバイザー : 綾智佳（The Third Gallery Aya オーナーディレクター）  
問い合わせ : 同志社女子大学 学芸学部 メディア創造学科（京田辺キャンパス）  
TEL 0774-65-8635 / E-mail : media-t@dwc.doshisha.ac.jp

※本学 Web サイト [http://www.dwc.doshisha.ac.jp/seito\\_photocon/](http://www.dwc.doshisha.ac.jp/seito_photocon/)  
「SEITO フォトコン'20」でも入賞作品を公開しています。

同志社女子大学広報部広報室広報課 / 広報課長 渡邊 一郎  
電話 0774-65-8631 FAX 0774-65-8632  
e-mail: [koho-t@dwc.doshisha.ac.jp](mailto:koho-t@dwc.doshisha.ac.jp)

## [SEITO フォトコン'20] 総評

### ■審査委員長による総評

今年度のSEITOフォトコンは、コロナ禍の中での開催となりました。緊急事態宣言の発表以降、学校への登校が禁止となり外出も控えなければならない毎日。誰も経験したことのない自粛の日々が延々と続きました。そうした中、カメラを手にした女子高生たちはどこに注目し、どのような表現を生んでくれるのだろうか？これまで以上に注目し期待もしました。実際、想像以上に多くの興味深い作品が集まりました。

これまでの日常とは異なる日々を生きる中で、不安・憂鬱・儂さ・抑圧・逃避など、ネガティブな感情を感じさせる表現が数多く見受けられました。またこうした状況をあえて打ち破ろうとするような、喜び・楽しみ・美しさ・希望・解放などのポジティブな感情を表現する作品にも数多く出会いました。強い表現であるか、ささやかな表現であるか、そこに優劣はありません。みなさんそれぞれが自分自身や他者と対峙し葛藤しながら、独自の表現へと昇華することに意義があるのだと思います。こうしたみなさんの創造的営為にエールを送りたいと思います。

(森公一)

### ■アドバイザー総評

新型コロナの感染拡大という予測していなかった世界的な状況の中、2020年SEITOフォトコンは13年目を迎えました。日本でも緊急事態宣言が発令され、高校も休学となり、自宅を中心とした日々が長く続きました。こんなにも急に多くの人々の日常が変わってしまったことはかつてなかったように思います。

そのような中でも、今年も、様々な作品が寄せられました。全体としては、それぞれの作品のテーマがより明確になり、テーマにぴったりあった撮影方法を選んだ事がはっきりわかる手応えを感じさせる作品が増えたように思います。

印象的だったのは、自分自身を見つめたセルフポートレートや友人たちのポートレートの作品です。クールに自分や自分達を捉え分析する一方で、そこに本音とも言える不安感を表現した作品を発見し、その複雑な表現に驚きました。また、シンプルに高校生活の楽しさを存分に表現した作品も多数あり、その幅の広さがこのコンテストの一番の魅力だと改めて強く感じました。

綾智佳 (The Third Gallery Aya)

#### 【綾智佳 略歴】

大阪生まれ。1996年The Third Gallery Aya 設立、ギャラリーオーナーディレクター。石内都、Jo Spence、牛腸茂雄、山沢栄子、岡上淑子、阿部淳、赤崎みま、浅田暢夫、渡邊耕一、垣本泰美、三田村陽、稲垣智子、川北ゆう、岩谷雪子などの展覧会を開催。世界最大の写真のアートフェアParis Photoやアジア最大の現代美術のアートフェアArt Basel Hong Kongにも参加し日本だけでなく作品を紹介している。

<http://www.thethirdgalleryaya.com/>

SEITOフォトコン2020  
入選作品

No	Award	タイトル	学校名	氏名	講評	写真
1	最優秀	藁小屋一ズ	大阪市立工芸高等学校	秋山 乃愛	何よりも目につくのが4人の子も達の笑顔。ストレートな写真表現の中にコロナ禍の憂鬱を吹っ飛ばさん限りのとびきりの笑顔が鑑賞者に勇気を与えてくれる。色あせた長靴は使い込まれた証だろうか。同年齢で遊ぶことが一般的な現代の子も社会に異年齢の子も社会が存在し、脈々と子も文化が受け継がれているであろう姿に諸手を挙げたくなる。不確実で多様な価値観の時代に、普遍的な子も力強さを見る思いである。(竹井 史)	
2	優秀賞	部室最後の日	横浜共立学園高等学校	十文字 彩乃	長年使用してきた部室が取り壊されることになった。2月の一斉休校以来、活動ができないまま迎えた最後の日。もっとこの場所で友と語り合い、思い出を作りたいかっただろう。黒いローファーが彼女達の複雑な胸中を感じさせ、本来ならば日々使用されたはずの缶も行き場を失っている。このような思いをした高校生がどれだけいたことだろうか。(河江 優)	
3	優秀賞	艶めき	愛知県立豊田南高等学校	小原 心温	多くの女子高生にとってこのフェイズはある意味とてもパーソナル、かつ同じ世代の仲間と空気感を共有できるコミュニケーションの大切なツールなのではないでしょうか。同時に、校則の厚い壁とも向き合わないといけないこのジレンマ。ここから様々な物語が溢れてきます。等身大の目線で捉えた「今・旬」を感じた作品です。(佐伯 林規江)	

SEITOフォトコン2020  
入選作品

No	Award	タイトル	学校名	氏名	講評	写真
4	優秀賞	生と死の狭間	熊本中央高等学校	松尾 瑚々音	人が作った電柱が続くはずなのに、知らない世界へと一本の道が導いています。浸かっていく海と待ち受ける山にその道はさらに続き、もう既に現世ではないかのようです。懐かしく悲しい誰かに会いに行けるような気持ちが蘇ります。そして、畏敬の念を持つほどまでに、太陽が反射していた日常から美しい闇へと惹き込まれていきます。(片山 由加里)	
5	優秀賞	16の空	東京都立橋高等学校	李 知星	コロナで遅くなった高校生デビュー。フルタイムの高校再開、希望と夢を胸に空を見上げると、ベランダから見慣れたこの景色も、何だか自分の思いでぬりかえたようです。気持ちを景色に重ねて撮影したこの夏空は、何にも負けない生命力を感じさせる、高校一年生のこの時期ならではの一枚です。(和田 戈虹)	
6	優秀賞	彼女	新潟県立新潟高等学校	関口 心彩	一見すると暗闇、よく見れば微細な光を放つスマホと、それを手にする「彼女」。さらに目を凝らすと、シャボン玉らしきものが知覚の限界域に見えてくる。はかなく消えるシャボン玉(日常)とスマホの微かな光(希望)によって、コロナ禍(闇の中)に生きることのリアルが、瞑想的かつ象徴的に表現されている。極端なローキーによって静謐な空気を感じさせる優れた作品だと思う。(森 公一)	

SEITOフォトコン2020  
 入選作品

No	Award	タイトル	学校名	氏名	講評	写真
7	優秀賞	踏切が拓く時	広島なぎさ高等学校	山田 菜々美	技術的な部分を超越した作品の持つ温かさに引き付けられました。友達の女子生徒の、はにかんだ表情がとてもいいですね。抑えめの夕焼け空もいい。そして踏切が世界観を作っています。どこか懐かしささえ漂う優しい写真です。コロナと共に生きる今の社会が忘れがちな、さりげない日常の大切さを思い出させてくれた大好きな一枚です。(影山 貴彦)	
8	優秀賞	マスクな夏	大阪市立工芸高等学校	米田 由香	コロナ禍でのマスクな夏。変わりつつある日常をテーマとしながらも、マスクの奥にある、変わることのない若者の未来への可能性や命の力強い躍動を感じさせる作品となっています。モノクロの静けさが、マスクに囚われることなく、そこにたしかに存在しているものに、心をむけさせることを助けています。(山下 智子)	
9	優秀賞	need you	愛媛県立南宇和高等学校	善家 未空	日々必要としている「もの」を並べて、これが私の今ですというように、手を添えています。2020年の状況の中でも、かわいいグッズを傍に置き、写真を撮り、大学受験に向かう日常がうかがえますが、同時にそこに欠けているものがあることも表しています。「見えないものを見えるようにする」表現への意欲を感じます。(有賀 妙子)	

SEITOフォトコン2020  
入選作品

No	Award	タイトル	学校名	氏名	講評	写真
10	特別審査員賞	羽化	開浦高等学校	宋 倫知	<p>ピンクの色調で覆われた中で、静かに目を閉じ、自分を抱きしめながらうずくまっている姿は蝶になる前の蛹を表現している。自分の未来の姿を膝に置いた小さな金属製の蝶に託し、これから大きく羽ばたこうとする思春期の静かな眠りの瞬間が読み取れる。(飯田 毅)</p>	
11	特別審査員賞	広い青と広い緑	大阪市立工芸高等学校	田中 李梨	<p>淡路島への日帰り家族旅行の一場面とのこと。澄み渡る青い空、広大な緑の大地。大自然の中で立ちつくす女性は、何を見て、何を考えているのだろうか。そして、影のみが映された。撮影者は、何を感じ、何を思ってシャッターを切ったのか。自然と人、人と人、多様な関連性、そしてそこに存在する個、何かを想像させる不思議な1枚である。(八田英二)</p>	